

銀杏

発行所

〒792-0835
新居浜市山根町8番1号
曹洞宗瑞應寺専門僧堂

編集発行 瑞應寺

電話(0897)41-6563
FAX(0897)40-3127毎月1日発行
(振替 01330-2-31918)
瑞應寺

印刷所 東田印刷株式会社

碧巖録物語独語〔二十七〕

後堂 門 原 信 典

第十九則「俱胝一指頭」寐語
⑧三界是道場

【評唱】山河大地下徹黄泉、万象森羅上通霄漢。且道、是甚麼物得恁麼奇怪。若也識得、不消一捏、若識不得、礙塞殺人。

葬儀で戒名をお授けする時に先ず「剃髮の偈」を唱えます。「発心の偈」とも云います。「流転三界中、恩愛不能断、棄恩入無為、真実報恩者」

「三界に流転(迷う)する私達には断ち難い恩愛があります。しかし、その恩愛を棄てて無為(人の思いを超えた真理)の道に入る事こそ、命を頂いた事への真実のご恩返しです」

私達は「三界」という迷いの世界に振り回されていると云う事です。が、「三界」は迷いでは無く「三界」に生きている私達人

うお経には、「地は堅固、水は潤い、火は熱し、風は動揺」とあり、地(固まる)水(潤い)火(熱)風(動く)この「四大」と云う相反する働きが仮に和合して、この世の中の生物、無生物の全てが存在しているのです。生と死も別々では無く、生の裏側には必ず死があるのです。

欲望に従つてのみ生きている「私」が、この身体で「生死は佛のおん命」という「無為の真実」に従つて生きる事を発心するのです。

道元禅師の「学道用心集」には「見ずや、小虫畜類の、其の子を養育するや、身心艱難し、経営苦心して畢竟長養すれども、父母において終に益なきことを。然而あれども子を念う慈悲、少物すら尚お然くなるは、自ら諸佛の衆生を念いたまうに似たり」とあります。道元禅師が小さな虫、畜類と云われる動物にまでも心を寄せられていることに驚きます。み佛様の立場から言えは、全ての生命に対する慈悲心は「ついに益無きこと」何の為にものならない無為、無条件、無報酬なのです。ところが人間は欲望が強いので執着心も強くなり、愛著、名利(名譽と利益)という煩惱が生まれ、何かの為、

条件、報酬を欲しがるのです。

どんなに恩情愛情が深くても、理不尽で不条理と思う事でも、真実の前にはそれさえも棄てざるを得ないのです。愛著を離れ「生死」に従つて、そこから出発し、み佛様の教えに出会う事が真のご恩返しになるのです。

戒名は亡くなって名前が変わるものではありません。故人は「三界」に迷い、恩愛に縛られる人間を超えて、佛様として私たちが導く存在となるのです。

その「三界」は、私達の迷いの姿が二十五に分類され「二十五有」と云います。地獄の一番底が「阿鼻地獄」と云い、苦しみが間断無く続くので「無間地獄」とも云います。そして「三界」の一番上は「悲相非非相天」で「有頂天」とも云い、喜びや得意の絶頂に居て自分も周りも見えない事です。私達は「三界」から生まれる「阿鼻地獄」から「有頂天」の間の「二十五有」を流転し続けているのです。

【山河大地、下、黄泉に徹し】

しかし、私達生命あるものは山川草木大地というみ佛様の姿に包まれ、黄泉の世界で地獄の底である「阿鼻地獄」の苦しみの中でも「地獄で佛」の言葉通

りみ佛様に出会えるのです。

【万象森羅、上、霄漢に通ず】

霄漢とは「天空、天空」という意味です。現実の厳しくも優しい大自然の営みというみ佛様の声は満ちて、有頂天と云われる天界の頂きで自惚れに迷つていても必ず目覚めるのです。「三界」の中の私達の苦しみや迷いも、み佛様の世界の中の出来事、佛縁があれば天界も地獄も六道能化地藏願王菩薩様がみ佛様の世界に導いて下さり「三界」がみ佛様の道場に成るのです。【且らく道え、是甚麼物か恁麼に奇怪なる事を得たる】

ちよつと考えてみる、是は何が何だかわからない奇怪な夢物語ではない。哲学でも思想でもない真の事実だ。

【若し識得せば、一捏を消せず】もしこの事を体得したならば、理屈や言葉を使うでつち上げでもこじつけでもない事がわかるであろう。「捏」は捏造の捏です。

【若し識得ならば人を礙塞殺せん】これが体得できなければ、自分自身を四方八方上下をも煩惱という鉄の壁で塞がれてしまい息が詰まって身動きできなくなるぞ。

(続く)

茶席のタバコ盆はおしまいください

悪臭を放つ悪習を放下すべし

高岩寺 来馬明規

東京巢鴨とげぬき地蔵尊高岩寺住職 医師 医学博士
東北福祉大学客員教授 日本禁煙学会役員

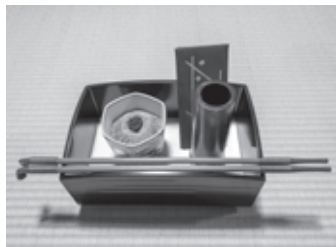
【はじめに】

茶の湯は禅仏教と深い関係があります。二月二十八日は佗茶のかたちを大成したとされる、千利休の命日にあたります。

ゆかりの大徳寺などでは月遅れの三月二十七、二十八日に「利休忌」法要が営まれます。

さて、利休が活躍していた時代の日本にはタバコはありませんでした。しかし、現代の茶事、茶会では喫煙用具一式「タバコ盆」を置くことが正式とされ、全世界で禁煙化が進む今日でも、依然として「茶室は喫煙室」になっています。

そこで本稿ではタバコ盆の作法を廃し、「茶室を完全禁煙に」というお願いを申し述べています。(1)



タバコ盆一式 左上より火入れ
タバコ入れ 灰吹き 煙管(きせる)
喫煙者がいなくても用意される

【茶室は喫煙室です】

茶事、茶会ではいままお煙管で刻みタバコが吸えます。タバコ盆が待合、腰掛、薄茶席に置かれ、茶会記にも記されます。煙管による喫煙習慣が廃れた今日でも、主客に喫煙者がいなくても、「正式なもてなし」としてタバコ盆が用意されます。

そこで茶の湯とタバコの歴史を振り返り、実は本来の茶の湯がタバコと全く関係がないことをお示しします。

【千利休はタバコを知らない】

タバコが日本に伝来した正確な時期は、今なお不明ですが、江戸幕府が開かれた慶長年間(1596～1615)に欧州からもたらされ、それ以降に葉タバコの栽培と喫煙習慣が普及したと考えられています。

豊臣秀吉がタバコを扱った記録は発見されておらず、千利休が逝去した年は天正十九年



(1591)頃で、利休自身が簡素簡略を旨とする佗茶の作法に喫煙行為を取り入れた形跡はありません。

古田織部(1543～1615)もタバコと無縁のようですが、千宗旦(1578～1600)、小堀遠州(1579～1647)らの「好みのタバコ盆」が今に

伝えられており、この頃から茶室で喫煙が始まったと推察されます。

嘉永四年(1851)に湖月老隠が著した『茶式湖月抄』には、「タバコ盆の事は利休の時代までまれまれに用いしゆえ、タバコ盆の一具などなかりしなり。ようよう九十年來、世人なべて用ゆる事になりたるなるべし。」とあります。(2) また、裏千家宗家出自の茶匠、井口海仙の『茶道雑話』(昭和11年)にも同様の論考があります。(3) いずれの著述も、元來茶の湯には喫煙の作法がないこと、「利休タバコ盆」は後世の創作であることを明らかにしています。

【タバコの害は江戸時代から既知】

現代医学の視点では、習慣的な喫煙は決して嗜好や趣味ではなく、「依存性薬物ニコチン」をくり返し補給する行為に過ぎません。江戸時代の僧侶たちも、タバコに強い依存性があることや、喫煙が修行や健康に悪いことを見抜いていました。(4)

黄檗宗開祖 隠元隆琦禅師は詩偈にて「釈尊がタバコ流行の時代に存命であればニク・ニラ等の臭い野菜と同様にタバコを禁じられたことである」と述べ、臨濟宗・二絲文守禅師

も「喫煙僧入門不許可」「客人にタバコ盆を用意しないこと」と断じています。

また、曹洞宗の学僧 卍山道白禅師は「寺院は禁煙の修行道場」「喫煙者は修行にならない」と語録に記し、面山瑞方禅師も「タバコは外道の抹香」「喫煙行為は仏法僧の三宝を侮辱する重罪」と切り捨て、装飾を付したタバコ盆やタバコ入を尊重する行為は「米を費やし財宝を棄つ」と喝破しています。裏返せば当時の僧侶達は、卍山、面山両禅師に苦言されるほどだらしなくタバコを吸っていたのでしよう。(4)

学者達にも慧眼がありました。『養生訓』(1712)で有名な貝原益軒は、

「烟草は性毒あり。烟(煙)をふくみて眩ひ倒れることあり。習へば大なる害なく、少しは益ありといへ共損多し。病をなすことあり。又、火災のうれひあり。習へばくせになり、むさぼりて後には止めがたし。事多くなりいたつがはしく家僕を勞す。初よりふくまざるにしかず。貧民は費多し。」(5)

として、喫煙による健康被害、火事、強い依存性、貧困と浪費を指摘しています。

【薬物依存を美化するタバコ盆】

しかし、このような警鐘も空しく、茶席の喫煙は正当化され、タバコ盆は美化され、さらなる佗・寂・幽玄を追求する手段として取り込まれて

いきました。高い精神性を具備しているはずの茶の湯は、不健康な喫煙行為とは対極にあるはずですが、タバコの虜となつてしまった一部の茶人達が、茶席を中座せずにニコチンの禁断症状を回避するため、茶室に持ち込める「好みのタバコ盆」を作ったようです。

残念なことに、近代の茶人にも「薄茶席に煙草盆が忘れてあつたら、その亭主は恥辱と心得てよい」「煙草盆はその日の茶會のバロメーターである」「煙草盆の火が消えているのは亭主の心が冷たいからだ」という言説が見受けられます。

また、現代の茶道具の研究者も「タバコは嗜好品である」という認識のもとに、香炉を見立てた(転用した)火入や家元好みのタバコ盆を、茶道具のひとつとしてとらえています。(6)(7)

ところが、タバコの悪臭はあらゆる茶道具にこびりつき、ヤニで茶室や掛け軸が汚れ、燃えさしは時に畳を焦がします。器物に付着したタバコ煙は、近年三次喫煙(サードハンドスモーク・残留受動喫煙)と呼ばれ、化学変化をおこして、徐々に毒性が強まることが報告されています。

さらに、上述の祖師方の語録に照らせば、仏様に供える香炉を喫煙用品に転用することも、仏に帰依する態度ではないでしょう。

「タバコ盆は茶席に不要」

現代の茶人の喫煙率は決して高くなく、タバコ盆は形骸化しているようにも見えますが、「タバコ盆は茶の湯を構成する要素だから、タバコさえ吸わなければ茶席に置いてても支障がない」「タバコ盆は形式的な存在であり、茶席でタバコを吸う人はいない」などと説明され、肯定されています。まるでモデルガンを置いて「弾が出ないおもちゃだからよい」と言うようなものです。



正客の位置を示すタバコ盆はモデルガンを置くような演出

さらに言えば、茶の湯が簡素を重んじるのなら、置くだけのタバコ盆は不要な演出であり、「タバコ盆があります、禁煙なので使えません」というのは不自然です。

また、茶の湯は華道、書道、武道、舞踊などとともに、小さい子供も学ぶ伝統文化の一つですが、未成年者が茶の湯の稽古を通してタバコ盆や煙管を扱えば、タバコの存在が肯定的に刷り込まれ、将来の喫煙のきっかけになることも懸念されます。「タバコ盆は正客位を示すのに必要」という意見にも賛成できません。正客が故意の喫煙で加害者

に、連客が受動喫煙の受忍を迫られる被害者に、という差別と暴力が暗示されるからです。タバコ盆にたよらずに正客の位置を示す方法があるはずですが。

「本来のもてなしを無煙環境で」

毎年世界で六〇〇万人の喫煙者がタバコ関連疾患で、二〇〇万人の非喫煙者が受動喫煙によって命を奪われています。我が国は政府と国会を巻き込んだタバコ利権がきわめて強く、タバコ規制が大幅に遅れています。脱タバコ推進は、国連と世界保健機関(WHO)が主導する世界的な潮流で、SDGsにも明記されています。



タバコは殺生 煩悩 執着 薬物依存 自他や環境への暴力 反SDGs

タバコ煙は「有毒ガス」、喫煙行為は「自殺殺行為」です。紙巻タバコは史上最悪の工業製品と云われ、人類への悪影響は計りしれません。

私は、清浄な空気が保証された茶室で、主客が心を通い合わせる本来のありように戻ることを心から希望しています。喫煙は茶の湯にふさわしい行為ではありません。

タバコ盆や喫煙補助具が置いてあるだけでも「もてなし」をだいたしにすることを重ねて申し述べ、茶席が名実ともに「タバコの存在しない空間」になることを願っています。

引用

- (1) 本稿初出来馬明規「タバコ盆はおしまいください」日本禁煙学会誌 第10巻4号(2015)。
- (2) 湖月老隠「茶式湖月抄」(1851)。
- (3) 井口海仙「茶道雑話」(1936)。
- (4) 千葉公慈 来馬明規「祖師に学ぶ禁煙の教え」仏教タイムス社(2010) 曹洞宗特別奨励賞受賞。
- (5) 貝原益軒「養生訓」(1712)。
- (6) 佐々木三味「茶道全集」第十四巻 創元社(1936)。
- (7) 林屋晴三「茶道聚錦」第十一巻 小学館(1983)。

追記

本稿は某茶道流派機関誌より最終的に掲載を断られ「巻頭言」として十年前に日本禁煙学会雑誌に発表、(1) 鎮信流御宗家のご厚意により、平成二十八年に機関誌『松治』に転載しています。今回は図譜を追加し、あらためて改稿しました。瑞應寺専門僧堂では、毎日朝参と言う行持があり、ご住職と修行僧が共に朝のご挨拶をし、心静かに抹茶をいただき、祖録を拝読します。香の薫りと清々しい空気の中でのお抹茶は格別です。

テレホン法話(〇八九七 四一〇〇三三)

禅のたより



◆隠居しごと

立春を迎えて境内の梅のつぼみが僅かに膨らみ始め寒気の中にも春の訪れを感じます。毎日、境内の掃除をしていると季節の変化を感じ取ることが出来ます。

近頃は師僧も少し歩き方がゆつくりとなってきました。十数年前の住職交代の時に、お檀家さまに「これからは隠居しごとを有り難く勤めていきます。居なくなつた時に住職が困るくらいに」と、なかば冗談のように宣言していました。その言葉通りに、毎日、境内の隅々まで丁寧に掃除に励んでいました。夕げに「隠居になつて分かつたことだが、住職は沢山の仕事に追われて、時間を掛けての仕事はしにくいものだ。」と時々語り合っていました。

お檀家さまから師僧の近況を問われる毎に「親であり師匠でもあります、遠慮無く元気に掃除してもらっております。」と冗談めかして言い訳のように答えておりました。内心には隠居しごとを辞めて体力が衰えないようにと願いながら。

最近ふと境内が整わない時があると感じてよくよく考えてみると

と。歩き方がゆつくりということ、は、踏ん張りがきかず、ほうきを持つにもバランスがままならぬと、ようやく思い当たることとなりました。シュロぼうきとちりとりを持って、夜明けから時間を掛けて境内の掃除に勤めていた理由にも気付くことが出来ました。とてもまねの出来ないことと思ひ知りました。幸いに生きているうちに気付くことが出来ました。同じようには出来ませんが、境内の掃除を今までよりも丁寧に勤めるようになりました。

お釈迦さまは最後のみ教えに「私を頼るのでは無く自分自身をより所として、また私が伝えた教えを、闇を照らすともしびとして修行しなさい。」とお示しになりました。お釈迦さまはあえて個人崇拜の対象となることを否定なされ、お弟子一人ひとりが自立して修行することを求められたのです。しかし、このようにも考えられると思うのです。言葉の裏側に、これまで修行の歩みを共に進んでこられたお弟子がたを深く信頼して、後は大丈夫と温かな励ましの言葉でもあるのだと。

今、境内掃除の箇所ごとに師僧

の工夫が見てとれて語らずとも伝わる心持ちがします。少しゆったりしてきたとはいえ、元気に夕げを楽しく語らうことも多いです。まだまだ学ぶことの多さを再確認した出来事でした。

瑞應僧堂知客 家古谷光祥
令和七年二月一日〜十日



■涅槃摂心

二月一日(土)より四日間、恒例涅槃摂心を修行。一山竜象衆、釈尊報恩の只管打坐。会中は門原後堂(常不軽菩薩品)、吉松維那(正法眼蔵八大人覺)、古川知殿(從容録)と法を得る。供養点心菓子等、会中の施主に深謝。

令和七年涅槃摂心 供養施主

広島県 長福寺 殿
愛媛県 禅興寺 殿
愛媛県 森川法雲 殿
当山 総代会 殿
愛知県 宝泉寺 殿
鳥取県 玉泉寺 殿
愛媛県 義安寺 殿
(順不同)

■涅槃会

釈尊入滅の聖日、涅槃会を厳修。二月十四日(金)、涅槃会連夜諷經(楠本副典) 十五日(土)、曉天、祝禱朝課、鎮守諷經に次いで涅槃会献粥諷經(吉松維那)規範に準じ厳修。午時、金岡山主のもと涅槃会正當諷經。



■金毘羅初大祭

二月七日(金)(旧一月十日)は当山鎮守金毘羅大権現初大祭。午前十一時、午後二時に上殿して山門鎮静、修道無難を祈願。

二月の日鑑

一日 祝禱
二日 涅槃摂心(四日迄)
七日 金毘羅初大祭
九日 日曜参禅会
十四日 涅槃会連夜諷經
十五日 祝禱・涅槃会献粥諷經
涅槃会正當諷經・略布薩
十六日 日曜参禅会
十八日 観音講(仏教勉強会)
廿三日 日曜参禅会
廿六日 法戦式
廿七日 佐賀県通天寺様団参
廿八日 略布薩

三月の予定

一日 祝禱
二日 日曜参禅会
九日 日曜参禅会
十一日 参玄会(十三日迄)
十五日 祝禱
常樂会(おねはん)
略布薩
十六日 日曜参禅会
十八日 観音講(仏教勉強会)
廿日 萬霊塔供養
廿三日 日曜参禅会
卅一日 略布薩



二月十五日は、お釈迦様が亡くなりになられた日です。二月になると、お釈迦様がお亡くなりになられたときの様子を描いた涅槃図がお寺に飾られます。

仏弟子の醍醐味は、今この命をどう生きるか。一日一日、さらに言えば一瞬一瞬が積み重なり、その人の生涯になる。目の前の忙しなさについて翻弄されてしまいが、どこまでも今頂いているこの命の尊さを忘れずにいきたいものです。また、自らと同様に、全ての人やモノも等しく尊い存在であります。自分の我が強まると、それが見えなくなってしまう。そんな曇りを払拭したいと願いつつ、お釈迦様の生き方にならう。この二月、そんなことを胸に過ごしていきたいものです。

受苑主事 森香有

瑞應寺専門僧堂

安居者募集

安居を希望される方には、掛塔志願書を送付致しますので、左記にご連絡下さい。

792-0835 愛媛県新居浜市山根町八一
電話(〇八九七)四一六五六三
FAX(〇八九七)四〇一三一二七



僧堂内朝課